

## 第31回 くまもと景観賞の審査を終えて

くまもと景観賞審査委員長 伊東 龍一

すでに3年半が経過しましたが、熊本地震が熊本に与えたダメージは大きく、精神的にも物質的にも完全な復旧は難しいことですし、復興にはまだまだ時間が必要です。

くまもと景観賞への応募数は、地震への対応のなかで景観を考えた作品が目立った一昨年の78件よりは減りましたが、昨年の48件よりも多い61件となりました。その中から今回は、大賞であるくまもと景観賞に1点、地域景観賞に2点、緑と水の景観賞と広告景観賞こそ該当なしとなりましたが、奨励賞に2点を選ぶことができました。

大賞のくまもと景観賞は、「美里フットパスのある風景」となりました。日本のフットパスの草分け的な取り組みであり、地元・美里の景観に対する意識の醸成にも大きく貢献し、もちろん地元も景観の向上に大きく貢献した、豊かな自然と人工物がつくる、文句のつけようのない素晴らしい景観でした。

地域景観賞は、「熊本県民テレビ社屋」と「南阿蘇村買取型災害公営住宅馬立団地」となりました。前者は、放送局の建物に要求される機能を満たすための、良好な景観とは矛盾するようにさえ思われる条件をクリアした上で、可能な限り開放的にし、タワーをセットバック、かつ建物のヴォリュームを分散して周辺地域への圧迫感を軽減し、陸軍時代の既存の石垣を残し歴史性へ配慮するとともに、敷地外の緑を取り入れて景観を考えるとといった工夫が評価されました。後者は、原地形をそのまま利用して景観に配慮しつつ、立野方面から降りてくる強い風を除けるように開口部や出入口の位置を決定するといった設計上の工夫や、それらを進めるにあたって若い設計者たちが互いに協力し合い、行政とも十分に協同して、できることを精一杯してゆこうとする姿勢が高く評価されました。

奨励賞は、「オモケンパーク | OMOKEN PARK」と「地獄温泉清風荘 すずめの湯」の2作品です。前者は、地震で被災した上通商店街の一商店の、後者もまた地震で大きく被災した温泉施設の、いずれも復興のプロジェクトです。ともにすでに優れた作品ですが、未だ完成したわけではありません。奨励賞には、その継続と達成に期待する気持ちが込められています。大変ですがより魅力的な景観を目指して取り組んでいていただきたいと強く願っています。そう簡単には完成しなくても、時間をかけてつくる、素晴らしい景観があってもよいのではないのでしょうか。